

論文の内容の要旨

論文題目 エスニック空間としての大久保地域-「新大久保」の成立と展開
——移動性を前提とする社会と共生の事例分析——

氏 名 申 惠媛

1980 年代後半以降、いわゆるニューカマー外国人の急増した日本社会において、その直接の受け入れ先となってきた「地域社会」は、エスニシティの異なる人々がともに暮らす「外国人集住地域」ないし「多文化共生」の現場として注目されてきた。本論文では、そのひとつである新宿・大久保地域を事例に、2000 年代以降に見られたエスニックな観光地「新大久保」の出現による「地域社会」の変容を探る。このことを通じて、定住を前提とし、居住を軸とする生活の場として捉えられてきた「地域社会」を、あらゆる人々が移動を経験し得、移動しながら関係を結びうる時代において特定の空間的範囲に定位する「社会」として捉え直すひとつの方法を提示することが、本論文の目標である。

本論文は 3 部 8 章構成であり、はじめに第 I 部（第 1 章～第 3 章）では、本論文の基本的な視座と問題設定を示した。第 1 章では、エスニックな観光地「新大久保」出現後の大久保地域の様相を素描した上で、大久保地域や「新大久保」を対象としてきた先行研究の検討を通じて問いの所在を明らかにし、具体的な研究課題を設定した。(1)エスニックな観光地「新大久保」の形成過程・特徴の分析、(2)観光地「新大久保」と居住・生活空間としての大久保地域の関係およびその相互作用の分析、(3)理論的・実証的研究を通じた、複合的な社会空間として見出される「地域社会」の捉え方の提示、(4)移民・エスニシティ研究と都市・地域社会学の（再）接続がこれに当たる。

第2章では、現代社会の「モバイル」化とこれに伴うモビリティーズ・パラダイムの台頭を確認した上で、これにより、大久保地域や「新大久保」を扱ってきた従来の分析視角が直面している変化と課題を明らかにした。まず、①移民／エスニック・コミュニティについては、これを成員の面でも空間的にも、同質的・閉鎖的な共同体として捉えることが困難になっていることが指摘される。そこで本論文では、開放性を併せ持つ形でエスニシティの空間的集中があらわれている状況を「エスニック空間」と呼ぶものとした。

このような「エスニック空間」の形成・変容を分析するためには、多様な（異質な）人々の相互作用・社会関係へと議論の射程を拡大する必要がある。そのために本論文では、②外国人集住地域研究における「多文化共生」を従来の分析視角として検討し、これがもつ制限性の高さを指摘した。その背景には、日本の社会学において「地域社会」が定住民コミュニティとして想定されてきたこと、「外国人」を定住・生活者として捉えるようになった移民・エスニシティ研究においても同様の概念設定が採用されてきたことが挙げられる。

第3章では、以上のような先行研究の検討を踏まえ、「新大久保」出現後の大久保地域を「エスニック空間」として捉え、移動性をもつ多様な人々によって織りなされる社会関係を分析するために、その土台となる「地域社会」の再考を目指した。従来の「地域社会＝コミュニティ」の要件となってきた共同性と地域性の分離が指摘され、前者がネットワーク論に接続されていったことを確認した上で、本論文では、こうした超域的なネットワークの形成を含む人々の移動性を前提としながら、地域性（近隣ないし隣接すること）に基盤する「社会」を捉えるための方法を模索した。そのひとつの方法として本論文は「共在」に着目し、移動性をもつ多様な人々の「共在」による相互作用とそれが生み出す社会関係の形成・変容を通じた秩序形成（葛藤・軋轢に対する安定した状態への再構成）の過程として「地域社会」を捉える視座を提示した。その上で、これらの知見を経験的な分析に適用するために、関連する先行研究群の検討を通じて抽出された諸論点を本論文の分析枠組みとして再構築した。

第Ⅱ部（第4章～第7章）では、第Ⅰ部で提示した分析枠組みに依拠して大久保地域-「新大久保」の事例分析を展開した。第4章ではまず、日本の外国人関連政策の変遷、エスニック・コミュニティ／タウンの形成や観光地化の状況および関連研究を、日本におけるエスニック空間の形成にかかわる文脈として確認した。その上で、具体的な事例となる新宿・大久保地域の特徴を概観し、データの調査方法を概説することで次章以降の分析に備えた。

続く第5章から第7章では、大久保地域（主に新大久保エリア）を事例に、先の分析枠組みに依拠して観光地「新大久保」出現の前後における社会関係の形成・変容を分析した。

第5章では、新規来住者としてのニューカマー外国人が急増し、同胞向けビジネスの集積を伴う自律的・閉鎖的なエスニック・コミュニティの形成・発展が見られた1980年代後

半から 1990 年代を対象に、大久保地域における社会関係の形成・変容とその特徴を分析した。この時期の大久保地域では、ニューカマー外国人居住者の急増や「国際通り問題」等によりもたらされた葛藤・軋轢に対し、第一に居住・生活空間としての性格が強固に保持され（居住・生活者以外の排除）、第二に居住・生活者間ではエスニシティの差異に基づく背中合わせ（葛藤をはらむ「並存」関係の形成）の安定化が図られることで、従来の定住者コミュニティとしての性質をもつ「地域社会」が維持されたと見ることができる。

これに対して、第 6 章で取り上げた 2000 年代以降は、大久保地域に立地する韓国系店舗の急増と、「日本人」顧客を主要ターゲットとする業種の増加を中心とする韓国系ビジネスの性質の変容が見られた。このような韓国系店舗の集積エリアは次第に「新大久保」と呼ばれ、一大観光地化していった。本章では、こうした「大久保」と「新大久保」という呼称の二重性に注目したメディア分析および実地調査に基づき、エスニックな観光地「新大久保」を、居住・生活空間としての大久保地域と物理的／地理的な空間的領域を共有しながらも、これとは異なる「ルール」によって運用される「レイヤー」のごとく展開される重層的な社会関係として見出した。2000 年代以降の大久保地域は、大久保地域-「新大久保」という、重層性を特徴とするエスニック空間として捉えることができる（→研究課題(1)への回答）。

このような重層的な社会関係の展開は、大久保地域-「新大久保」に「居住者／観光客」という新しい葛藤関係をもたらしたが、2010 年代初頭以降はさらに、この重層的な社会関係の「間」を媒介する実践が見られるようになる。第 7 章では、「新大久保」を取り巻く環境の変化のみならず、〈居住・生活を主軸とする社会関係〉と〈観光資源を媒介とする社会関係〉の双方に身を置くビジネス経営者らによる、両社会関係間の「橋渡し」ともいえる実践が見出された。これらの実践は、観光地「新大久保」の維持・促進・管理を目的に行われ、「居住者／観光客」間の葛藤関係の調停を可能にした。さらに、移動性を組み込んだマルチエスニックな地域コミュニティの構想と接続されることで、エスニシティの異なる居住者間の関係にも変容の兆しが見られた。以上のように、この時期の大久保地域-「新大久保」では、「橋渡し」実践による〈社会関係の重層構造の安定化〉を通じて、従来の／新たに生じた葛藤・軋轢の安定化が図られたと見ることができる（→研究課題(2)への回答）。

結論となる第Ⅲ部第 8 章では、本論文の分析枠組みの有効性を検証し、その意義を移民・エスニシティ研究の見地から捉え返すことで研究課題(3)・(4)に回答した。

本論文で設定した「地域社会」の分析枠組みは、①「共在」による相互作用に着目することで、居住を軸とする生活以外の場面を分析の射程に入れ、移動性の高低にグラデーションのある多様な人々をアクターとして組み込むことを可能にし、社会関係の重層構造とその「橋渡し」実践の分析を可能にした。これにより、移動性をもつ多様な人々が、「共在」に

よる相互作用とそれが生み出す社会関係の形成・変容を通じて、移動性を低減させることなく（定住化を通じた既存の社会関係の維持にとどまらない）新しい形で秩序を形成していくさまを見出すことができた。②実際の分析においては、物理的／地理的な空間の要素とそれに定位する諸社会関係をいったん切り離したことで、社会関係の重層性のみならず、これまで捨象されてきた地域「外部」の事象やアクターの移動性、超域的なネットワーク等を考慮することが可能になった。③このような「地域社会」が、相互作用の継起であるという意味合い以上に、関係生成的であるという意味でも「動態的」といえることを事例分析から明らかにし、より強い意味で動態的＝相互作用的な「社会」のあり方を見出したことも、本論文の分析枠組みの意義として挙げられる（→研究課題(3)への回答）。

さらに、①「エスニック空間」という視座を提示することで、外国人集住地域研究がもつ制限性の高さを解除し、移民・エスニシティ研究と都市・地域社会学の両分野の新しい接続方法を示したこと、②これに基づき、移動性をもつ多様な人々の「共在」による相互作用に着目することでかえってエスニシティの異なる居住・生活者間の関係が従来とは異なる形で変容しつつある状況を見出したことも本論文の意義として挙げられる（→研究課題(4)への回答）。

以上のように、ますますモバイル化する現代社会において、特定の空間において移動性をもつ人々が接触ないし隣接することがもつ社会学的意義を模索した本論文は、移動性を鍵として、多様な形態での「共在」に基盤する秩序形成、すなわち動態的な「社会」の取りうる姿を、より明確な視座の上に位置づけ直す糸口を提供するものであったといえる。